

豊かなふる里・うつくしまふくしまを取り戻そう

－ 大震災から立ち直ろうとする福島県の姿無償配布大作戦 －

株式会社大和地質研究所

大村一夫

大層な表題をかかげてしまいました。今回の東日本大震災では、福島県の浜通り地域が世界でも初めての地震・津波の災害に、原子力発電所の放射能災害が加わったの3重苦の被害を受けてしまいました。3重苦を背負ってしまったふる里・浜通りを元の豊かなふる里に復興するためには、浜通りの人々が再びふる里に戻ろうとすることが肝要であると考えます。そのためには、浜通りの人々の全てに、ふる里の震災前の姿と震災後の姿を知ってもらい、戻ろうとする意欲を高めてもらうことが必要と考えて大層な表題を思いついたのです。

幸いにも、人工衛星データから、長尺の紙データを作成する技術を修得するため、開発者（岩手大学特任教授）の元に派遣していた技術者が、2年ぶりで3月末に帰社してきました；さっそく、(財)リモート・センシング技術センター（RESTEC）から提供を受けた衛星データを加工して、浜通りの震災以前の姿と震災後の姿を作成し、我が協会の協力を受けて、いわき工事事務所と県とに無償配布をしたのですが、震災後の衛星写真は雲が多く鮮明さに欠けていたこと、長さ3メートルを越える2枚の図面は大きすぎ取り扱いに不便であったことから、対策を相談しにデータ提供者のRESTEC（東京）を訪れました。

そこで、「紙媒体での現地（市町村自治体や避難所など）への無償配布計画」の協力者募集があることを知りました。RESTECが用意していた衛星画像地図は、長尺画像を22の図幅に切り分けていて取り扱いが容易なこと、地理情報が加えられていて位置確認が容易であったこと、などから、避難所にいる方々には、知りたい地点を特定しやすいこと、両棲は上空700mから地表を展観するものであることから、地図は読めなくとも被害の全体像を抱えることが容易であったこと、25,000分の1または50,000分の1の縮尺での2.5メートル解像度は被災地域の被害状況を把握するのに適していたことなどから、私共はRESTECにデータの無償提供を受け、賛同者のご協力をいただき、大判の紙データに加工

立てて支援を続けていただくことにあります。

さらには、本作戰をご支援下さる方々には、今後も被災された方々および復興に携わっている方々を暖かくご支援くださることを、そして、この画像を目にされた方々にも、この大惨事から立ち上がろうとされている方々を暖かくご支援下さることをお願い致すことにあります。私は、浜通りが復興されなければ、福島県は豊かなふる里にはなり得ないと考え、県民の心からの後押しがあってからこそその復興と思い作戦開始となりました。

私共の提案を受け入れた RESTEC は、WEB サイトに無償提供していた金衛生画像地図を CD にコピーして私共の手元に届けてくれました。これをベースに、私共が予定していた配布用の画像地図の見本が仕上がりましたので、本作戰をご支援下さる方を募ることに致しました。

当面の目標として、浜通りの津波浸水地域の 50,000 分の 1 衛星画像を震災前彼の画像枚を 1 組として、10 市町村配布分（各市町村毎に 30 ケ所に）、県配布分（北部・中部・西部に分け各 8 ケ所に）、協賛者・協力者（全地域を 1 組みずつ）の、A1 版合計 1,600 枚強の衛星画像地図の編集・加工・印刷を行ない、それらが無償配布（配布先は県・市・町・村と市町村長の指定する被災者の避難所または小中学校主体）することを予定しています。

幸いにも、用紙 45 巻（1 巻 30m）を格安で提供してくれる会社、大型プリンターを 40 日間無償提供してくれる会社、印刷を手伝ってくれる会社が現れ、我が地質業協会も用紙代とトナー代に充てる協賛金集めに協力して下さることになり、この作戦を開始することができました。

印刷は 6 月 6 日開始し、6 月中には配布を完了したいと考えております。津波浸水地域に原発から 3 キロメートル、20 キロメートル、30 キロメートル圏を記入した衛星地図が有用であることを理解して下さった協会及び会員の皆様には敬意を表し、厚く御礼申し上げます。（平成 23 年 5 月 31 日記・福島県地質業協会だより「第 1210 号」寄稿から）